

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0095号

2024.7月号

NPO法人福岡実践人

令和六年

中に入て中と思はぬ霞かな

娑婆即寂光浄土

森信三先生一語千鈞より

再生



人生二度  
なし

不尽

再生の題字（森畑彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

# 父親 人間学 入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第89回 6月1日(土)

場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

## 四 職場の人間関係

―父として・人間として―

人間の宿業 今さらわたくしが申すまでもなく、国際的にも、国内的にも世は正に「激動・激変の時代」と言われている通りであります。それは全く幕

末・維新の感を禁じ得ないほどであります。では現代という時代の特徴を認識する上で大事な鍵は何かと申しますと、それは一つは多極化ということであり、一つはスピード化だろうと思われれます。しかしこの二つは相関係数であつて、この多極化ということも、スピード・アップより発生した副産物ともいええますから、一言でもつて言えば現代は全くめまぐるしいスピードの時代と申せましよう。

こうした激変の時代に処して、しかも経済の低成長時代に生き残るために、各企業は文字通りシノギをけずっているわけであります。それゆえ企業においては、技術革新の寵児であるコンピューターの導入によつて、経営の合理化をはかる一方、人間組体操の強化をはかるべく企業内教育が盛んに行われるに至つていゝのであります。しかもその企業内教育の三大眼目について各社の目指すところは、(一)いかにしてモラル(士気)を起こさしめるか、(二)人間関係のひずみをいかに是正するか、(三)自己啓発と健康管理はどうあるべきかということになつていゝようであります。企業内において、人間関係の重要さが説かれ出したのは、直接的にアメリカからの移入と思われれますが、戦後のわが国においても、しだいに人間関係のひずみが生じ出したからであります。一面からは人間関係こそは、いつの時代においても人間のもつ「宿業」に根ざすものゆえ、問題の絶え間がないとも申せましよう。

長たる者の心がけ では、この「人間関係」について考える時、一ばん大事な

ことは何かといえは、申すまでもなく結局は「和」ということでありましよう。ところがこの「和」を生み出すには、一体どうしたらよいか問題となるわけで、この点こそ「人間関係」において一ばん大切な、同時にまたもつとも困難な点だといえましよう。

ところで、この点に関して一ばん大事な問題は、わたくしは上位にある人が「無私」でなければならぬと思つてあります。実さい長たる人にとつて、この「無私」の精神ほど大切なことはないと言えましよう。そしてこの「無私」の精神は、やがてそれが人々に対する「公平」な態度となるわけで、いわゆるえこひいきというものがあつたり、いわんやえこひいきなどするとしたら、たとえその人が専門の技術の上では卓れていたとしても、そういう人には、部下はけつして信服はしないでしよう。ところで部下が上長に対して、人間的に信服しないとなりますと、その団体なり集団の統一に弛みを生じてくるのは必然であります。しかも統一に弛みを生じた集団ないし団体というものは、真の力を發揮することができなくなるの言うまでもないことです。次に長たる者として大事なことは、部下の一人ひとり人間の真価をハッキリ認識するということでありましよう。この点も、結局のところ「無私公平」の精神なくしては、真の認識には至り得ないと言えましよう。

その上に長たる者の心がけとしては、部下に対する人間的な温情というか、思いやりがなくてはいかに長たる人に専門的な実力があつたとしても、部下の信服に欠けるものと申さねばなりません。

## 同僚関係

さて人間関係というものは、ひとり上・下関係ではなくて、横の関係、すなわち同僚関係も免れぬものであります。ところがこの同僚関係というものが、また実にむつかしいものだと言つてよいでしょう。ではその根因は何かというと、結局それは、われわれ人間には「嫉妬心」というものがあつて、これは非常に根深い人間の情念だと思つてあります。そもそも嫉妬心とは、自己の存立の根底をおびやかすような強力な競争者が出現したとなると、どんなリツパな人といわれる人でも、この嫉妬の念なきを得ないのであります、唯それをどこまで露わに表わすか否かが、その人の人となりとか、教養によると言えましよう。とにかくこの嫉妬の情というものは、われわれ人間には、普通に人々の考えている以上に根深いものですから、これが「人間関係」を傷つける、恐らくは最深の因といつてよいでしょう。すなわち、たとえ上位にある人自身は公平に処しても、部下の人びとと相互の間には、つねにこの嫉妬の念がはたらいているわけですから、事はけつして容易ではないわけです。

では、このような嫉妬の念を克服するには、われわれは一体どうしたらよいでしょうか。それは、自他の実力及び人間的眞価をありのままに認識する他ないと思つてあります。そしてその際も、もつとも大事なものは、やはり「無私」という精神的態度であります。すなわち、その実力において自分より卓れている人に対しては、その実力が自分より勝つてゐることを、冷静かつ公平に認識するといふことであります。そうしますと、嫉妬の焰もしだいに薄れて、わが心も自然に落ちつきを取りもどすのが常であります。

**上位者に対する心がけ** では次に、上位者に対する下位者としての心がけは、一体どうあるべきでしょうか。原則としては、上位者の命には忠実に従ふといふことであります。そしてよほどの場合でない限り、それに対して批判がましいことは言わぬといふことでしよう。それはなぜかと申しますと、一部下に過ぎない立場と、広く全体を見渡して責任を追うてゐる立場とでは、物の見方の上に非常な相違があるからであります。

その代わり、もし上位者から意見を徴せられた場合には、率直坦懐に自己の所信を述べるがよいと思ひます。ただしその場合といえども、立場の相違にもとづく見解に広狭のあることは、やはり忘れぬようにしたいものであります。ですから仮りに、上位者から意見を求められた場合といえども、あまり調子に乗つて批判がましい印象を相手に与えぬような心がけは必要と思ひます。同時にこゝうした点について、わたくしに忘れ難いのは、かの岡田式静坐法の創始者たる故岡田虎次郎先生の言葉と伝えられる「上位者に喰つて掛つて、自ら快しとする程度の間人は、眞の大器ではない」という言葉で、今もつて忘れ難いのであります。また会社の帰りに、縄のれんをくぐつて一杯ひっかけながら上位者の悪口を言つては、溜飲を下げる程度の人間も大したものではないと思つてあります。

次に上位者に対して、下位者として守るべき一つの心がけは、上位者に対して媚び諂わぬ様に——ということでもあります。すなわち上位者に対しては、いたづらに反抗もしないと同時に、また反面、これに媚び諂つたりなどしないといふことでもあります。というのも媚び諂うといふことは、人間として卑しいことだからであります。同時にまたそれ故に、当の上位者自身からも、かえつて軽んじられる結果となることを知らねばなりません。

時を守り  
場を清め  
礼を正す  
不尽

## 第四章 明日のためにできること

### 人の役に立つことだけを考える



請求書の人生と領収書の人生

“もっと、もっと、もっと”

際限なく求めて欲しがって生きるのは、「請求書の人生」であると、知人の有吉様から教えていただきました。

有吉様は、幼い頃お祖母さんから、寺社にお参りした時は「ありがとうございます」と請求書ではなしに領収書のお参りをしなさい、と教えられたそうです。

向上心や探究心は人の成長に欠かせない大切な条件ではありませんが、度の過ぎた欲求は人を卑しくし、ひいては国家の尊厳を傷つける「こと」にも繋がります。

有吉様のお話を通じて、求めるばかりではなく、いま与えられているもの「こと」に感謝の心をもつ「領収書の人生」を歩めと教えていただきました。

日本には領収書の生き方をしている方が大勢おられますが、そういう方は世間から注目されることはありません。請求書の生き方をする人が派手で目立つのに比べて、領収書の生き方をする人は地味で人目につかないところが共通しているからです。

誰からも注目されず、光の当たらないところで、いつ報われるか分から

ない「こと」にも心を込めて取り組んでおられるそのお姿からは、卑しさは微塵も感じられません。

他人に頼ったり、求めたりすることなく、人の役に立つことだけを念頭において、一途に歩み続けるお姿は、人を惹き付ける豊かな魅力を備えています。

このような方々は、お互いに住む世界は異なっても、一度会っただけで朴訥なお人柄に惹かれ、年末の知己のようになります。

語り合ううちに、「この方の成功を祈り、ささやかであってもお手伝いをしたい」という思いが湧いてきます。

そして、「この領収書の生き方をされている方々同士のご縁を結ぶこと」の大切さを実感いたします。

### 求めるべき人の交わり

古人は、人の交わりがともしれば、「利交」に陥りやすいと論じています。

「賄交・勢交・量交・談交・窮交」の五交を利交といい、虚しい交わりの中で貴重な人生を終える人が多くいます。

利交の世界に生きる人に共通しているのが、「請求書の生き方」でありましょう。国家の外交においても、お互いが、「国益」のみを主張すれば、外交ではなくて利交でしかありません。

領収書の生き方をしている人の交わりは、「素交」といい、友人としての三原則を不知不識のうちに守っています。日本の政治・行政・経済に三原則が保たれた時、真に美しい国になれると確信します。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 367 回

# 博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスマイト



第367回 博多駅早朝清掃

女子高生が進行役に！！

6月8日(土曜日)

69名参加



学校休日に私服でお掃除に参加する  
女子高生たち（この日は24名）

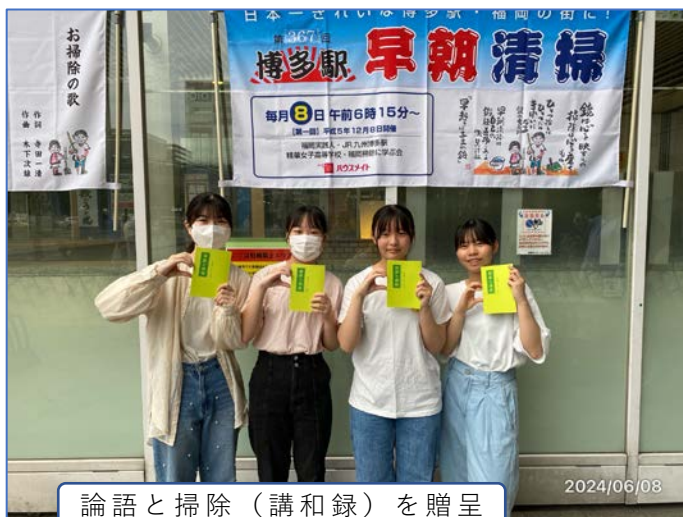
2024/06/08

第367回、早朝清掃の進行役を精華女子高の女子生徒がやっているというのを聞き付けた、日本を美しくする会の“利会長”さんが、事前連絡なくお忍びで視察に来られました。どうだったでしょう!! けさえもん 拝





朝会前のミーティング



論語と掃除（講和録）を贈呈



精華女子高K先生と生徒たち



初参加の人たち



博多駅副駅長



お掃除の歌合唱



宮田学園の先生方





利 会 長 の 自 然 体

2024/06/08



M自治会（1,000戸超）自治会会長

2024/06/08



バス停横にいつの間にか茂ってしまった木を処理してくれました。5月道具がなく今回準備して参加のTさん



博多駅早朝清掃の道友たち

2024/06/08



# 関東ブロック大会in駒場高等学校

令和6年6月16日(日)



開会式(250人超)の参加者



H実行委員長の開会挨拶



Mリーダーより掃除前説明



中央階段の床磨きの様子



駒場高校長から感謝の挨拶



駒場高校生徒会長の体験発表





## 福岡耕作放棄地再生／福岡県糟屋郡宇美町



ユンボで溝作り



排水ができるようになりました



2024/05/12



草刈りも楽しくなりました



周辺が田圃として耕作しているため、毎年6月になると野菜は水没してしまいます。その水没から逃れるために、今年は圃場の隅をユンボ（バックホー）で新たに溝を作りました。（地主さんの許可をもらい）

水路を作ってから大雨の時に水のたまり具合、排水具合を確認すると非常にスムーズに排水できていました。今年からは、圃場周辺の稲作農家と並行して野菜作りが出来そうです。

近隣には同じ地主さんの畑（現在は竹林）の竹を伐採して整備して元通りの畑にしたいと考えています。



～古き良き時代の日本再生～

# とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

=== 心を耕し、生を拓く ===



仁風庵の“かのこゆり”



## “ひとりの百歩から百人の一步“



後援



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism


『長目の浜』は、甌島の観光スポットとして真っ先に取り上げられる景勝地です。薩摩藩主島津光久公が景観をほめ「眺めの浜」と命名したことが由来とされています。

平成28年には国定公園に指定されましたが、一旦海岸に下りてみると、4kmの海岸線は漂着ごみで埋もれています。遠目には美しく見える長目の浜を真の美しい長目の浜に再生するために、とんぼろ海掃隊は昨年2月より海岸清掃を始めました。

毎月一回、里町の楽農人（農業生産者）を中心に道友達が活動を続けています。その活動は島外からも道友が足を運び続けられています。

今回、一人の一步から始まった活動を百人の一步にしようと道友達が立ち上がりました。

**令和6年7月14日（日曜日）**長目の浜に100人が一步を踏み出します。ただ目の前にある漂着ごみを拾うためだけに集まります。島外からも40名を超える道友が観光抜きで集まります。美しい長目の浜を再生するために皆で一步を踏み出しましょう！



長目の浜の漂着ごみの現状





	7月							8月				9月					
日	7	8	14	14	19	27	28	3	4	8	24	1	7	8	14	20	28
曜	日	月	日	日	金	土	日	土	日	木	土	日	土	日	土	金	土
行事活動名	戒壇院早朝作務 第13回	博多駅早朝清掃 第368回	長目の浜海岸清掃 第18回	トンポロ海掃隊会年次大会	講演「実践あつてこそ磨かれる人間力」	福岡空港ミリオン清掃74回	「論語と掃除」出版記念交流会	福岡空港ミリオン清掃75回	戒壇院早朝作務 第14回	博多駅早朝清掃 第369回	長目の浜海岸清掃 第19回	戒壇院早朝作務 第15回	福岡空港ミリオン清掃76回	博多駅早朝清掃 第370回	長目の浜海岸清掃 第20回	東京・深谷 楽農交流	筑豊掃除に学ぶ会200回記念
場所	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	里町公民館	竹乃屋 東比恵本店	福岡空港周辺	難波市民学習センター	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	福岡空港周辺	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	東京都・埼玉県	のがみ プレジデントホテル
開始時刻	6時30分	6時15分	6時30分	11時	18時		17時		6時30分	6時15分	6時30分	6時30分		6時15分	6時30分	20日・21日	15時
運営団体	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	楽農人 とんぼろ海掃隊	一社) 太志塾	福岡掃除に学ぶ会	大阪洗心読書会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	NPO法人楽農人	筑豊掃除に学ぶ会

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。その他、活動しているお掃除実践もごさいますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃隊

〈合同事務局〉 ☎811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F\_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。